

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2026年1-3月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

今期の調査は331社から回答があった。景況判断DIは▲18となり、前期調査から10ポイント悪化した。来期の見通しは▲33となり、15ポイント悪化する見込みとなっている。

経営上の問題点の回答割合は、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が最も高く、「従業員の不足」、「人件費の増加」の順となっている。

以下、その他業況感DIの内訳

前期(2025年10-12月)に対して、

- ・売上高DIは▲7で、18ポイント悪化
- ・処理量DIは▲18で、23ポイント悪化
- ・営業利益DIは▲5で、5ポイント悪化
- ・資金繰りDIは▲2で、同水準
- ・借入難易度DIは10で、4ポイント悪化
- ・設備投資DIは4で、1ポイント悪化
- ・従業員数DIは▲3で、4ポイント悪化
- ・契約単価DIは、収集運搬が12で、6ポイント改善
処分が11で、3ポイント改善

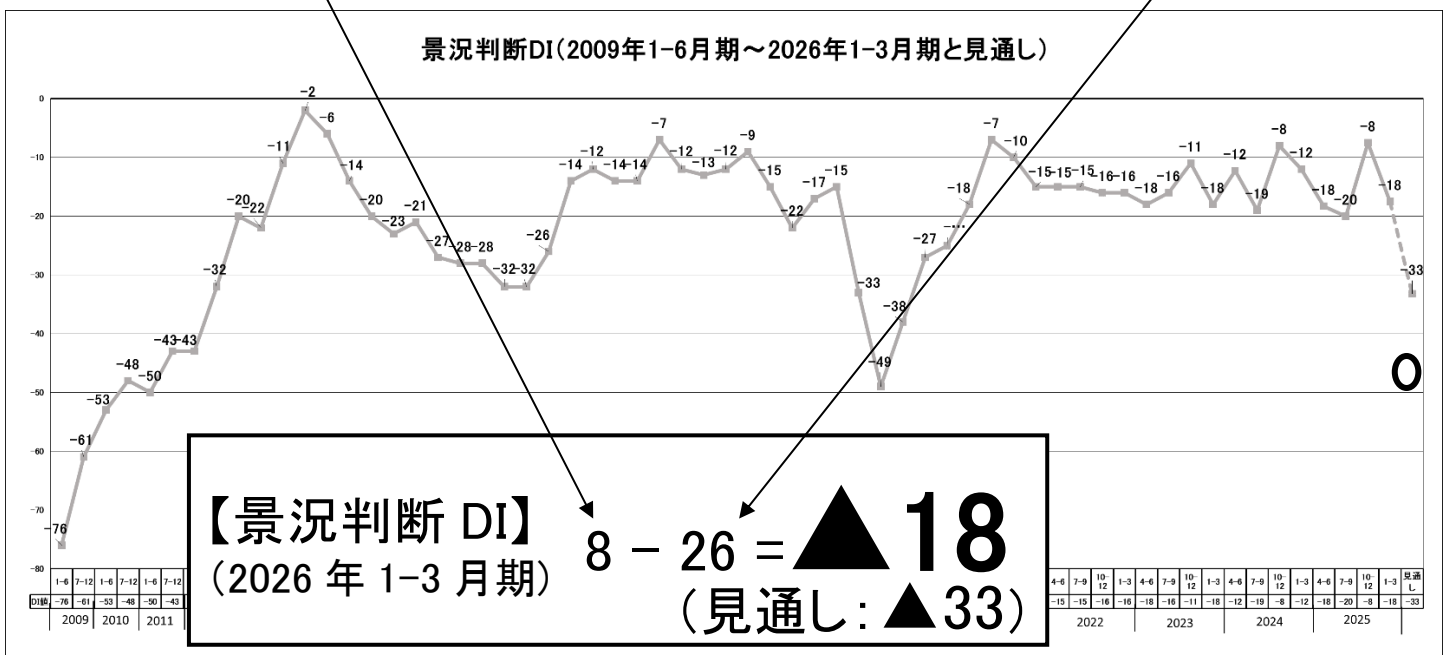
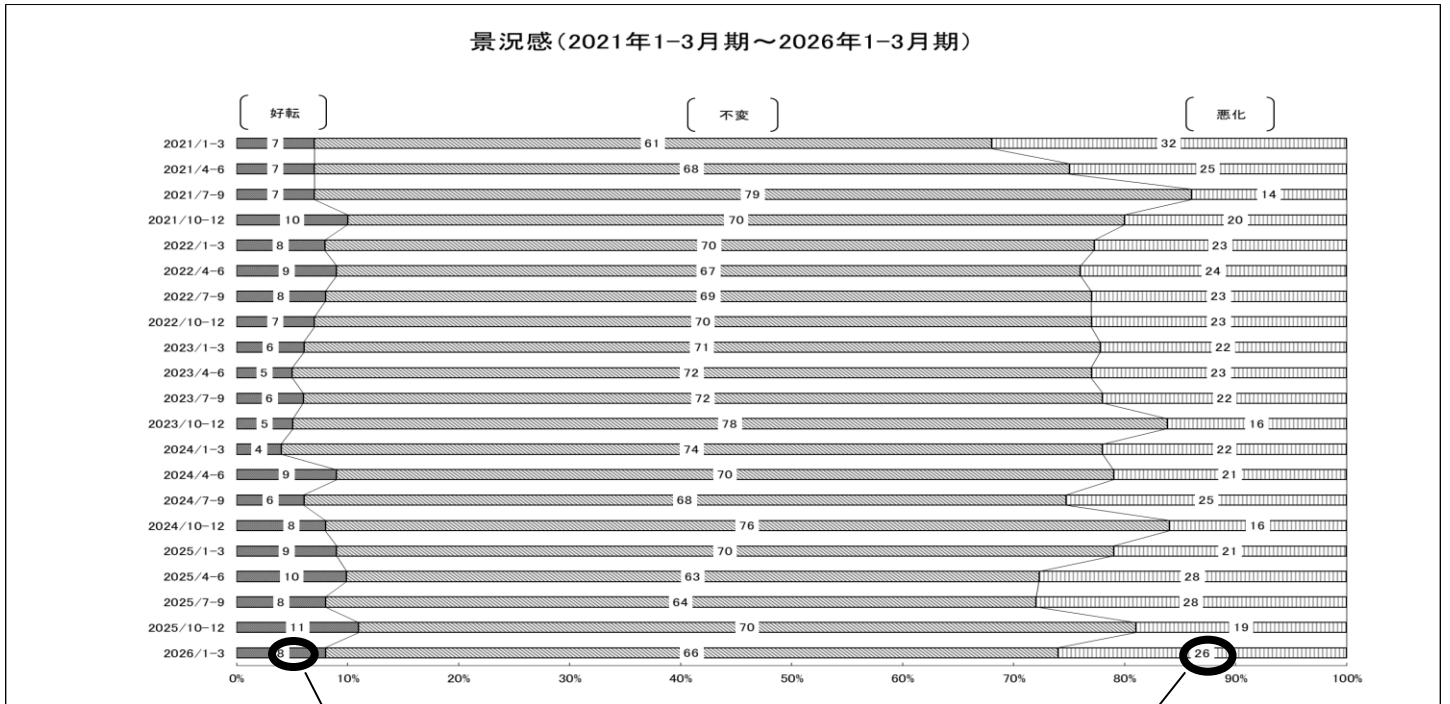
- 売上高の動向については、前年同期比で4.2%減となった。
- 処理量の動向については、前年同期比で17.9%減となった。
- 経常利益率については、前年同期比で1.6%減となった。

※DIとはディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「好転」・「増加」したなどとする企業割合から「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

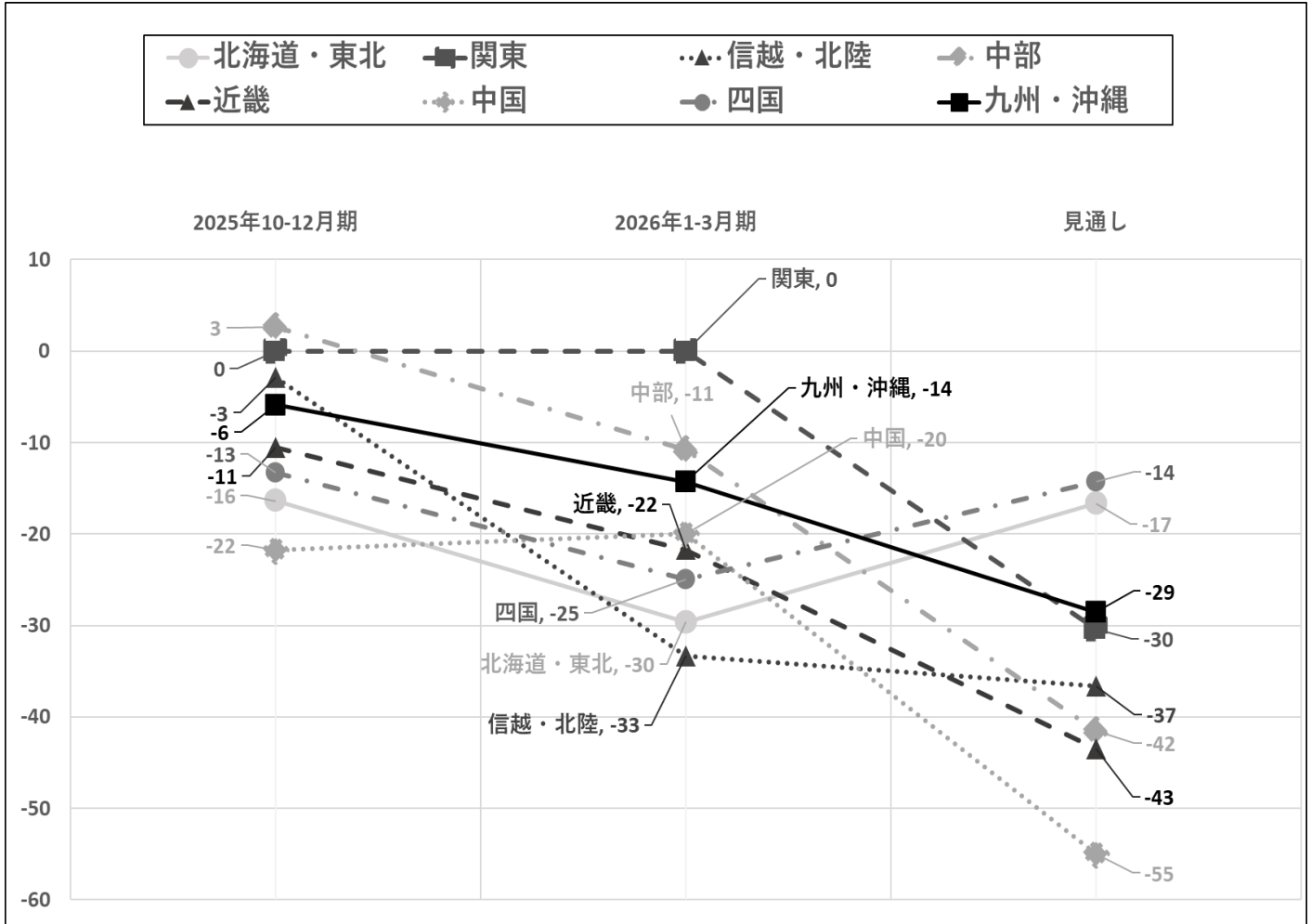
1. 景況感 DI(「好転」・「増加」-「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲18 となり、前期から 10 ポイント悪化した。
見通しは▲33 となり、15 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「中国」が改善した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「北海道・東北」、「四国」が改善する見込みとなっている。(3 ページ参照)



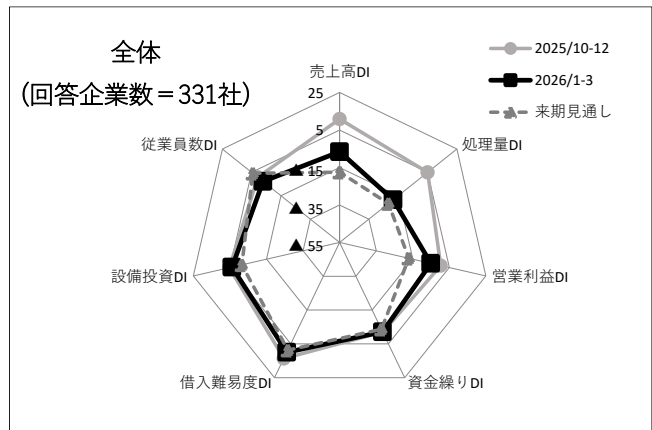
地域別景況判断 DI



	全国	北海道・東北	関東	信越・北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2025年10-12月期	-8	-16	0	-3	3	-11	-22	-13	-6
2026年1-3月期	-18	-30	0	-33	-11	-22	-20	-25	-14
見通し	-33	-17	-30	-37	-42	-43	-55	-14	-29

(2) 売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

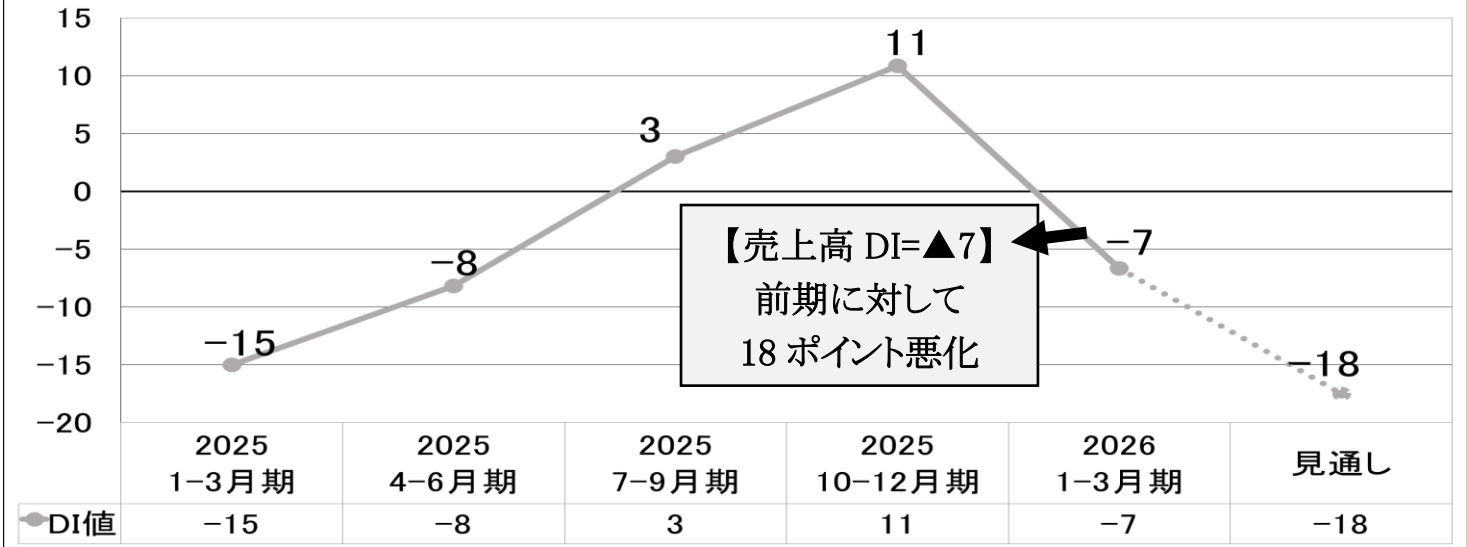
- 前期から「資金繰り DI」以外の指標が悪化した。
- 見通しは、「従業員数 DI」が改善する見込みである。



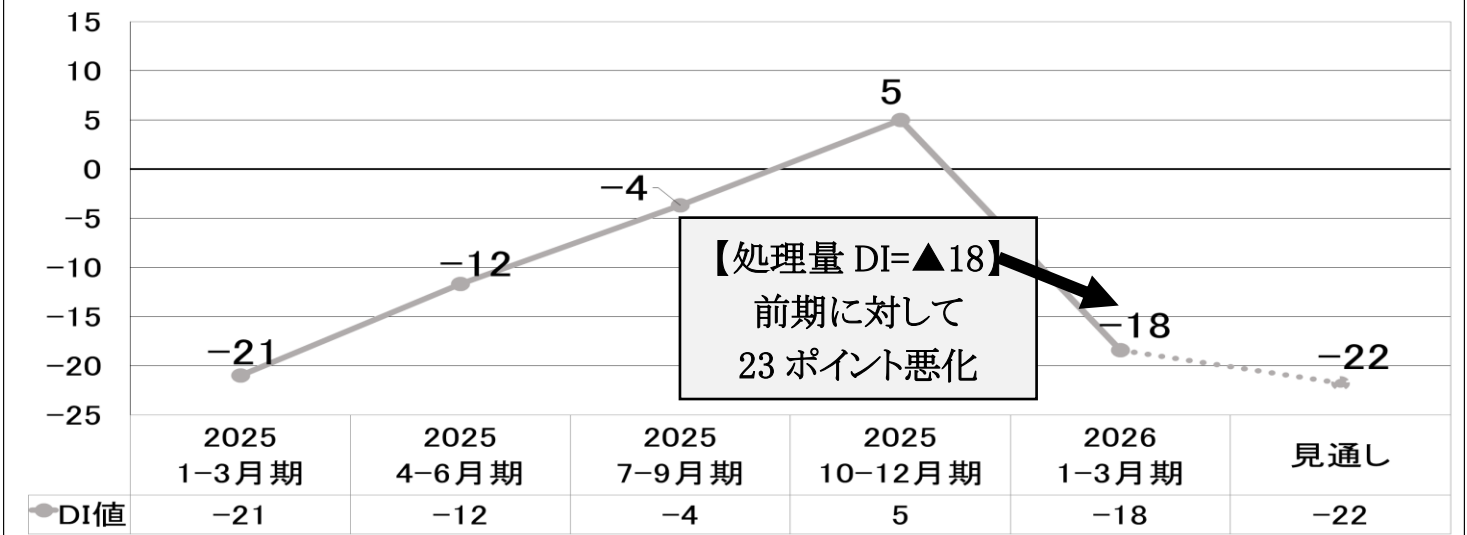
以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は▲7 となり、前期と比べて 18 ポイント悪化した。
見通しは▲18 となり、11 ポイント悪化する見込み。
- ・処理量 DI は▲18 となり、前期と比べて 23 ポイント悪化した。
見通しは▲22 となり、4 ポイント悪化する見込み。
- ・営業利益 DI は▲5 となり、前期と比べて 5 ポイント悪化した。
見通しは▲17 となり、12 ポイント悪化する見込み。
- ・資金繰り DI は▲2 となり、前期と同水準になった。
見通しは▲4 となり、2 ポイント悪化する見込み。
- ・借入難易度 DI は 10 となり、前期と比べて 4 ポイント悪化した。
見通しは 9 となり、1 ポイント悪化する見込み。
- ・設備投資 DI は 4 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。
見通しは▲2 となり、6 ポイント悪化する見込み。
- ・従業員数 DI は▲3 となり、前期と比べて 4 ポイント悪化した。
見通しは 4 となり、7 ポイント改善する見込み。

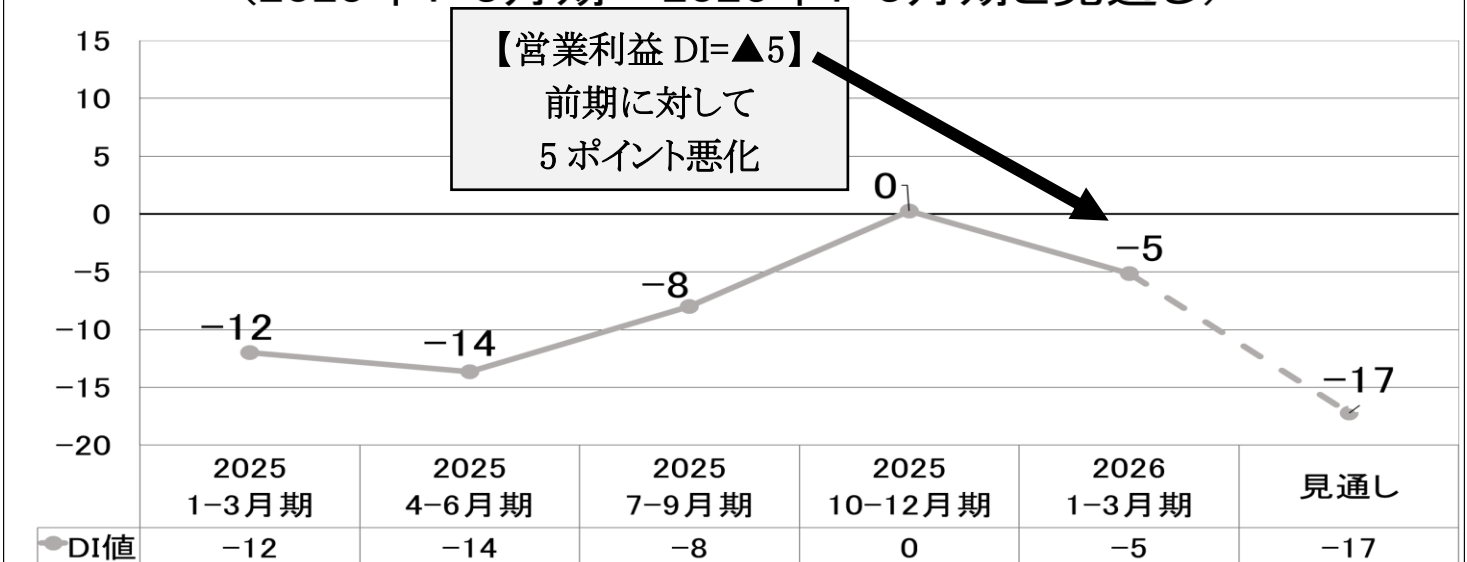
売上高DI (2025年1-3月期～2026年1-3月期と見通し)



処理量DI (2025年1-3月期～2026年1-3月期と見通し)

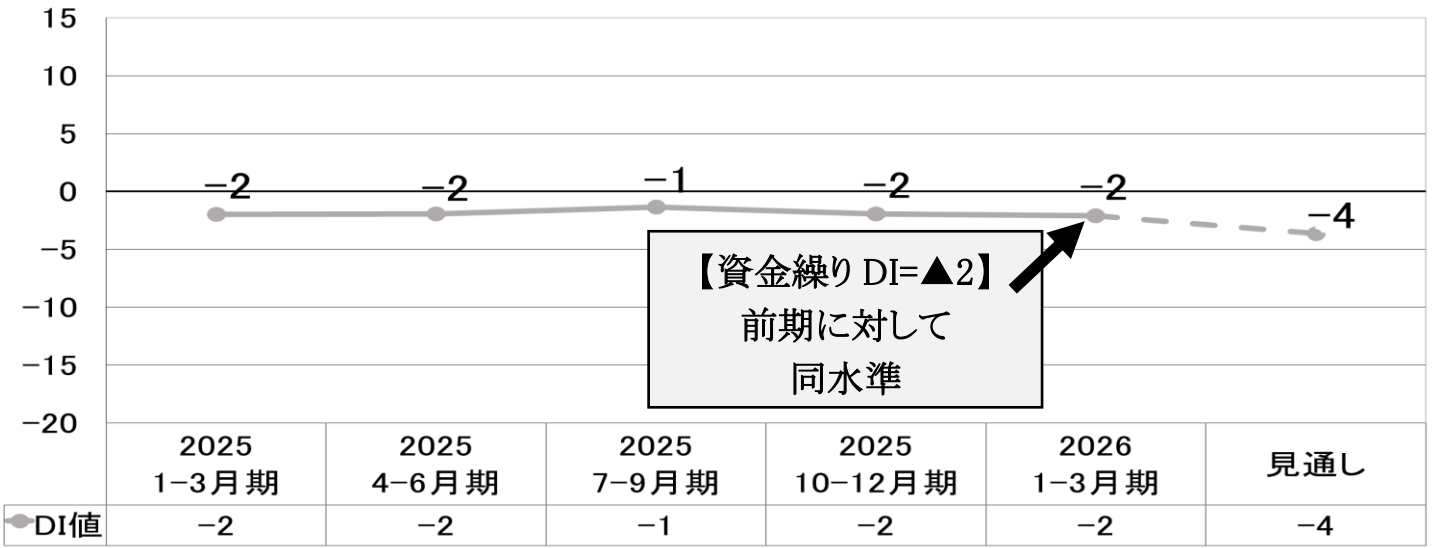


営業利益DI (2025年1-3月期～2026年1-3月期と見通し)



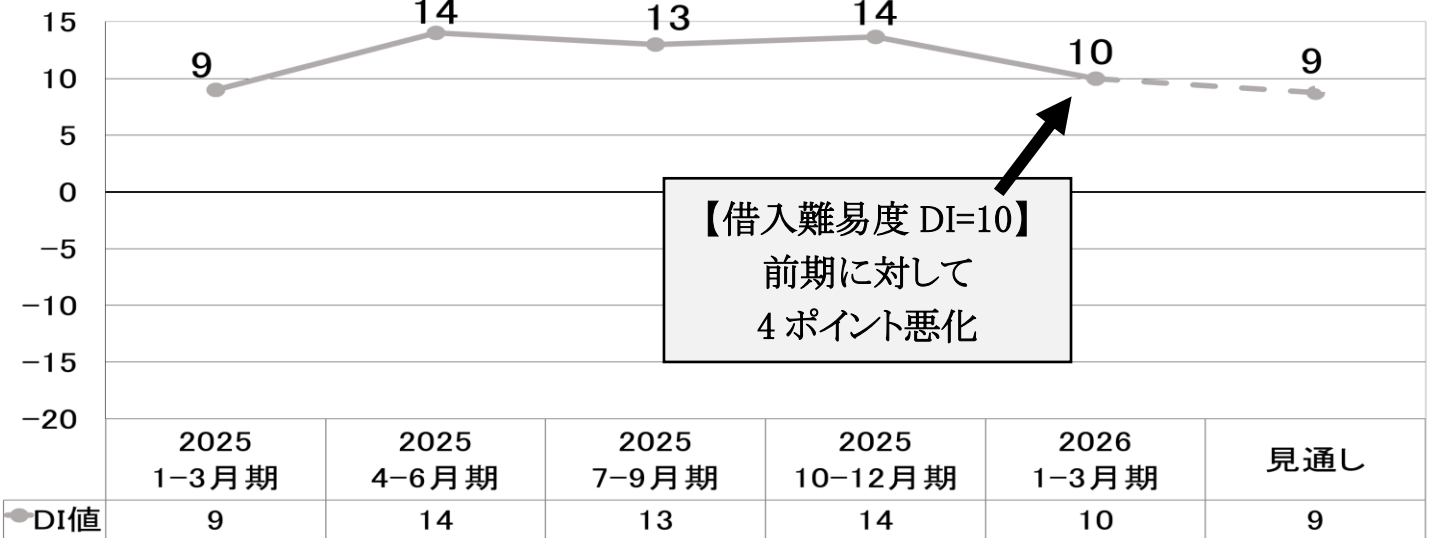
資金繰りDI

(2025年1-3月期～2026年1-3月期と見通し)



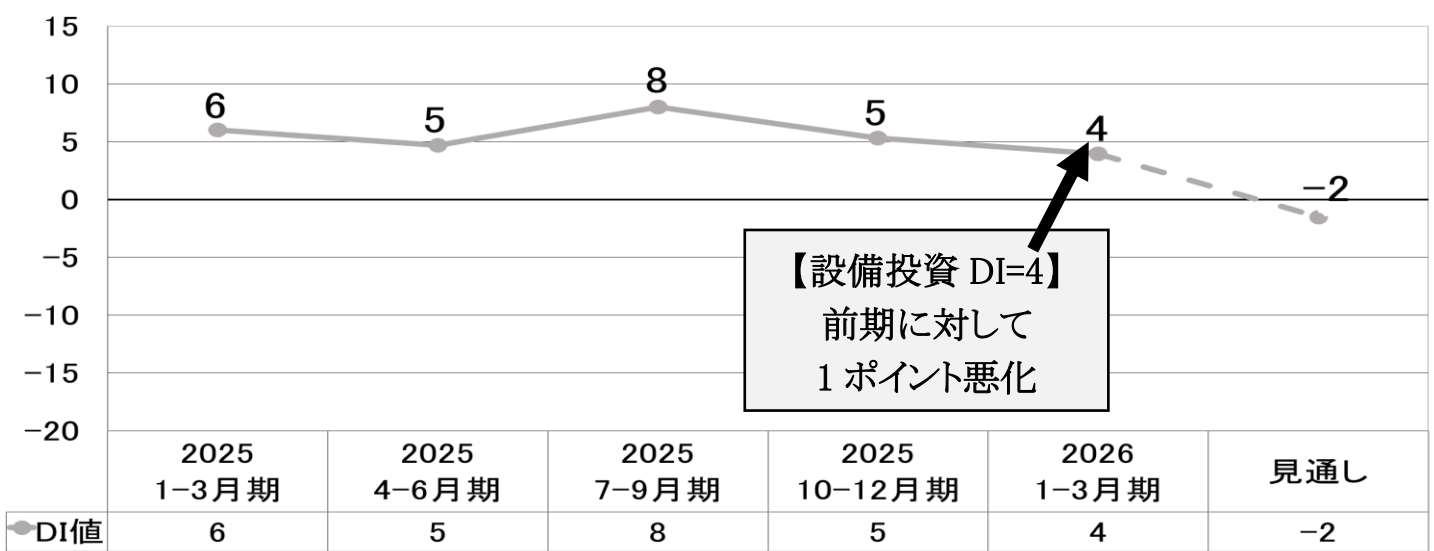
借入難易度DI

(2025年1-3月期～2026年1-3月期と見通し)

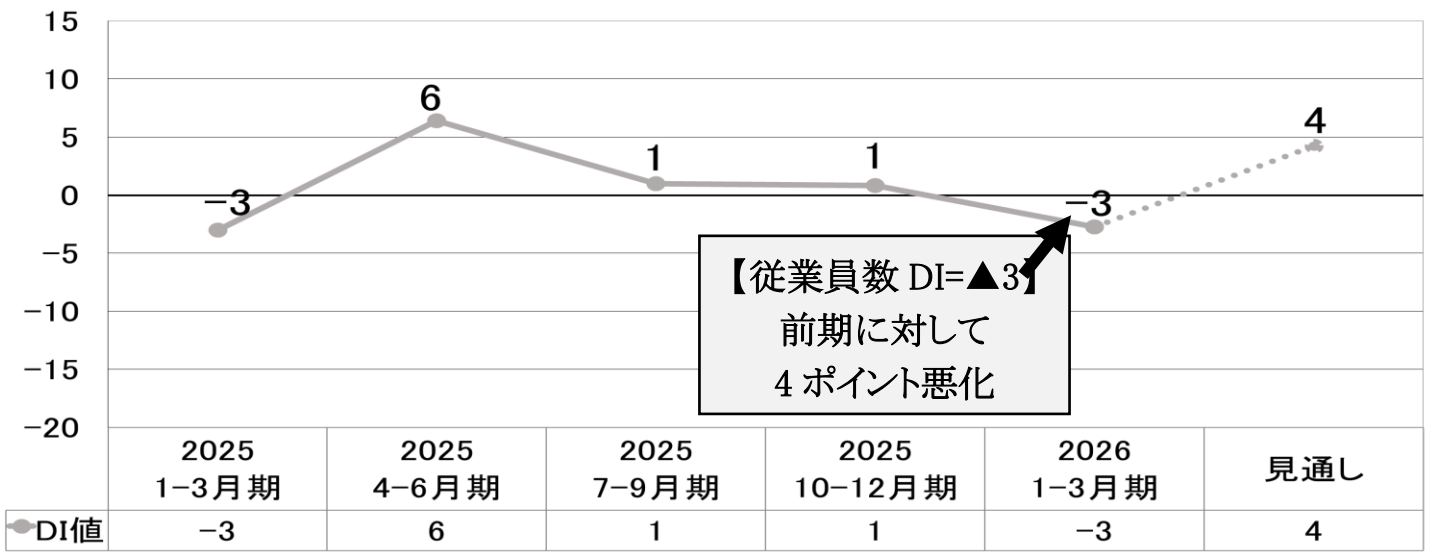


設備投資DI

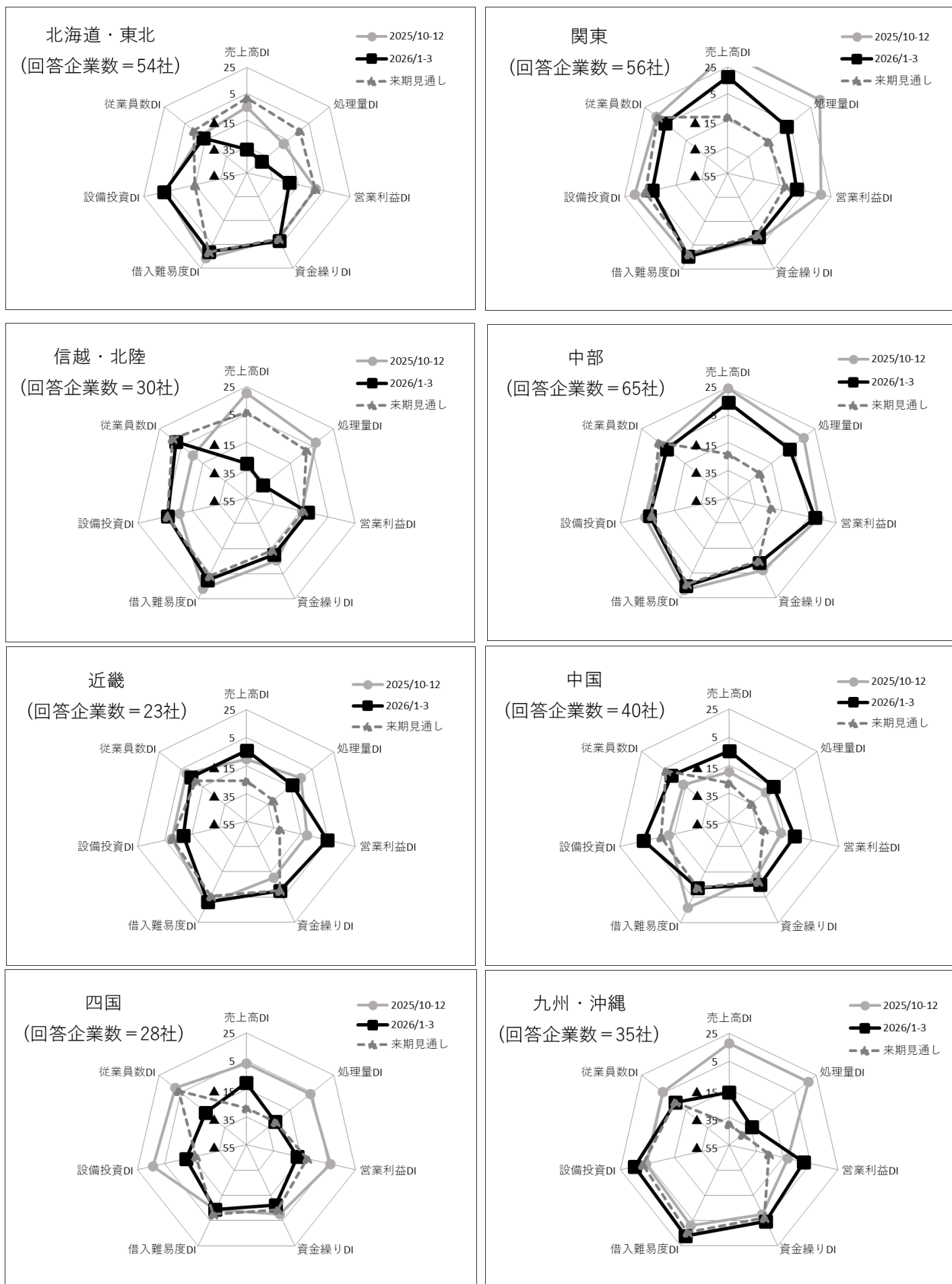
(2025年1-3月期～2026年1-3月期と見通し)



従業員数DI (2025年1-3月期～2026年1-3月期と見通し)

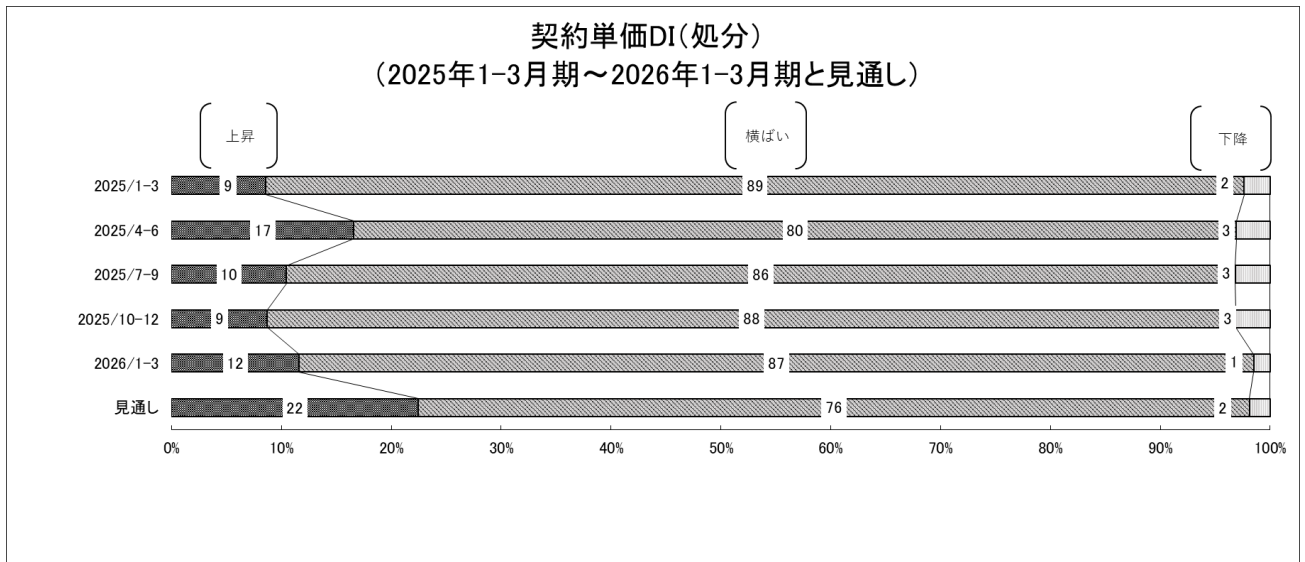
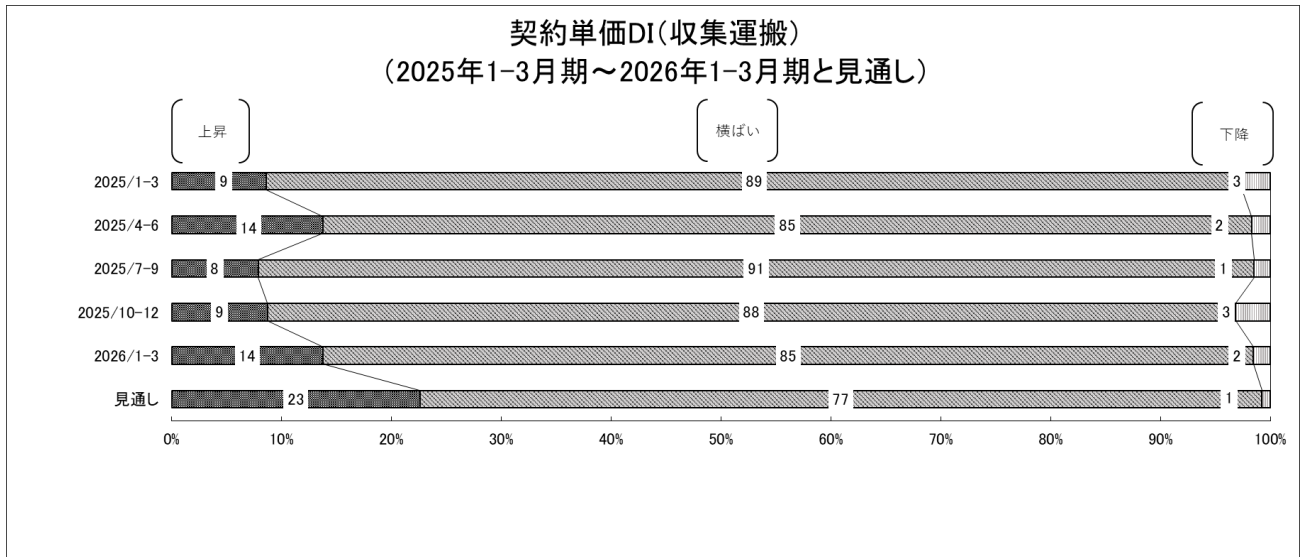


【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



(3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 12 となり、前期と比べて 6 ポイント改善した。
見通しは 22 となり、10 ポイント改善する見込みである。
- 処分の契約単価 DI は 11 となり、前期と比べて 3 ポイント改善した。
見通しは 20 となり、9 ポイント改善する見込みである。



2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、4.2%減となった。

有効回答数:96社

単位:千円

前年売上高	2025年1月	2025年2月	2025年3月	平均
	5,831,646	6,619,119	6,253,551	6,234,772
今年売上高	2026年1月	2026年2月	2026年3月	平均
	5,452,539	4,762,309	7,707,266	5,974,038
前年比	▲ 6.5%	▲ 28.1%	23.2%	▲ 4.2%

3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、17.9%減となった。

有効回答数:104社

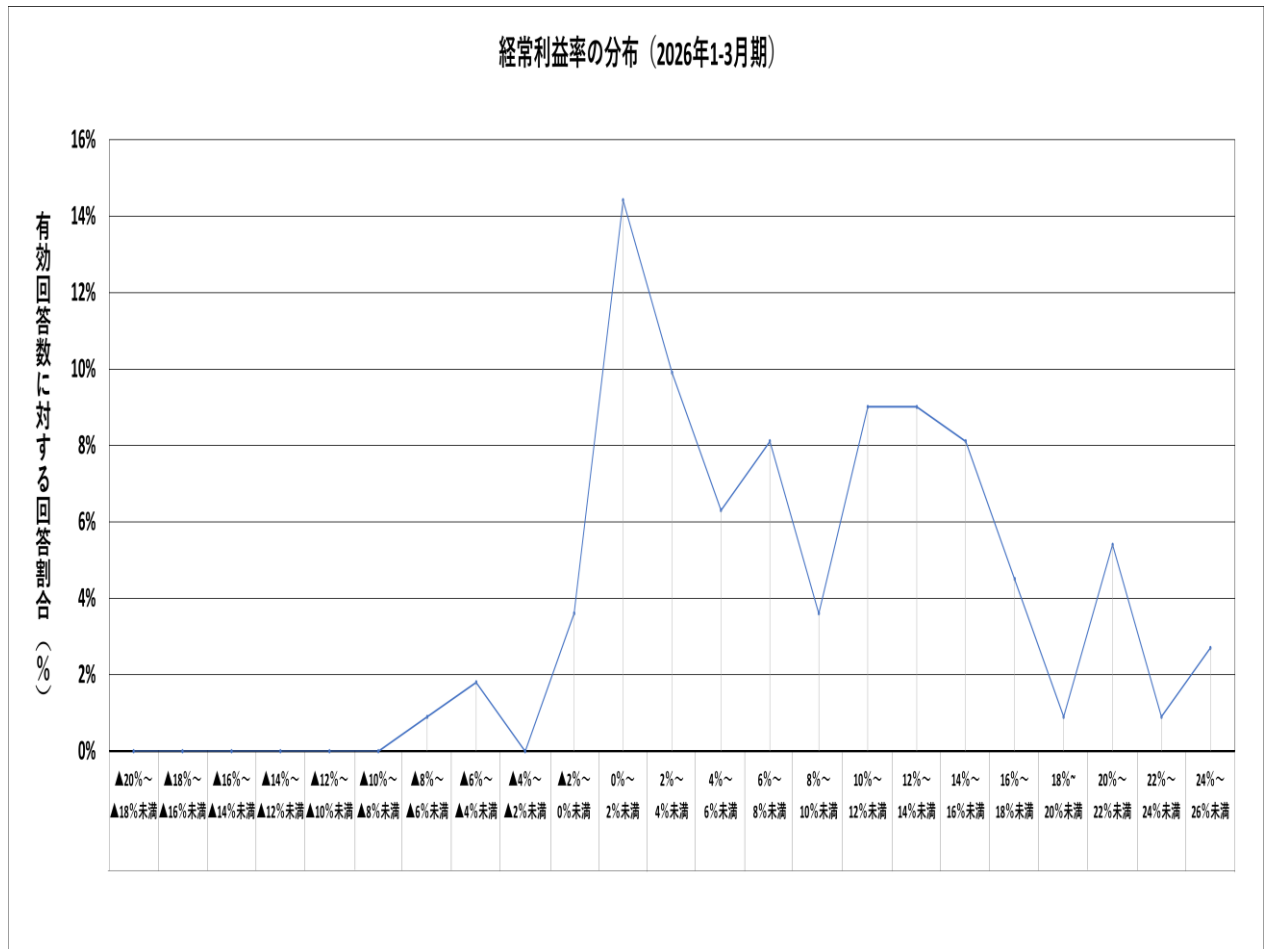
単位:トン

前年処理量	2025年1月	2025年2月	2025年3月	平均
	257,901	251,098	262,866	257,288
今年処理量	2026年1月	2026年2月	2026年3月	平均
	212,939	187,570	232,925	211,145
前年比	▲ 17.4%	▲ 25.3%	▲ 11.4%	▲ 17.9%

4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

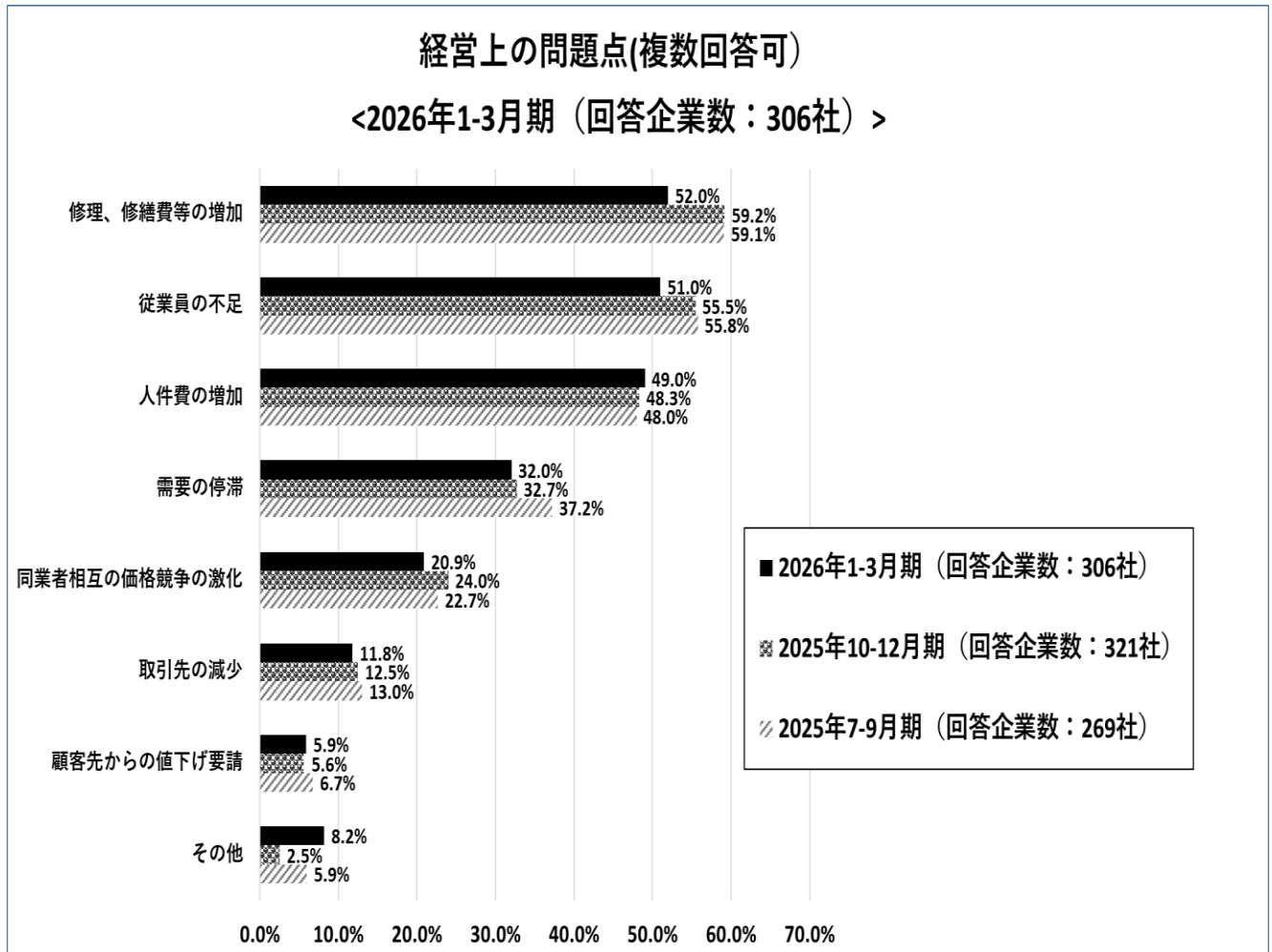
- 経常利益率の平均値は 11.3%となり、前年同期比で 1.6%減となった。

有効回答数:111 社



5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が最も多く、「従業員の不足」、「人件費の増加」の順となっている。



【その他記述回答の代表的な意見】

- ・ 中東情勢による燃料費、材料費、修繕費の高騰
- ・ 中東情勢による原油高の影響で物価上昇を価格反映できない状況
- ・ 中東情勢により、物品調達が難しくなっており、納期遅延などで売上に影響する
- ・ インフレによる価格高騰
- ・ 石油価格の高騰によるプラスチック生産量への懸念
- ・ 単価値上げ交渉
- ・ 最終処分場の受入制限及び値上げ
- ・ 豪雪により生産性悪化
- ・ 従業員の高齢化

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

2026年4月1日～4月30日

(3) 調査方法

Webによるアンケート

(4) 回答数・回答率

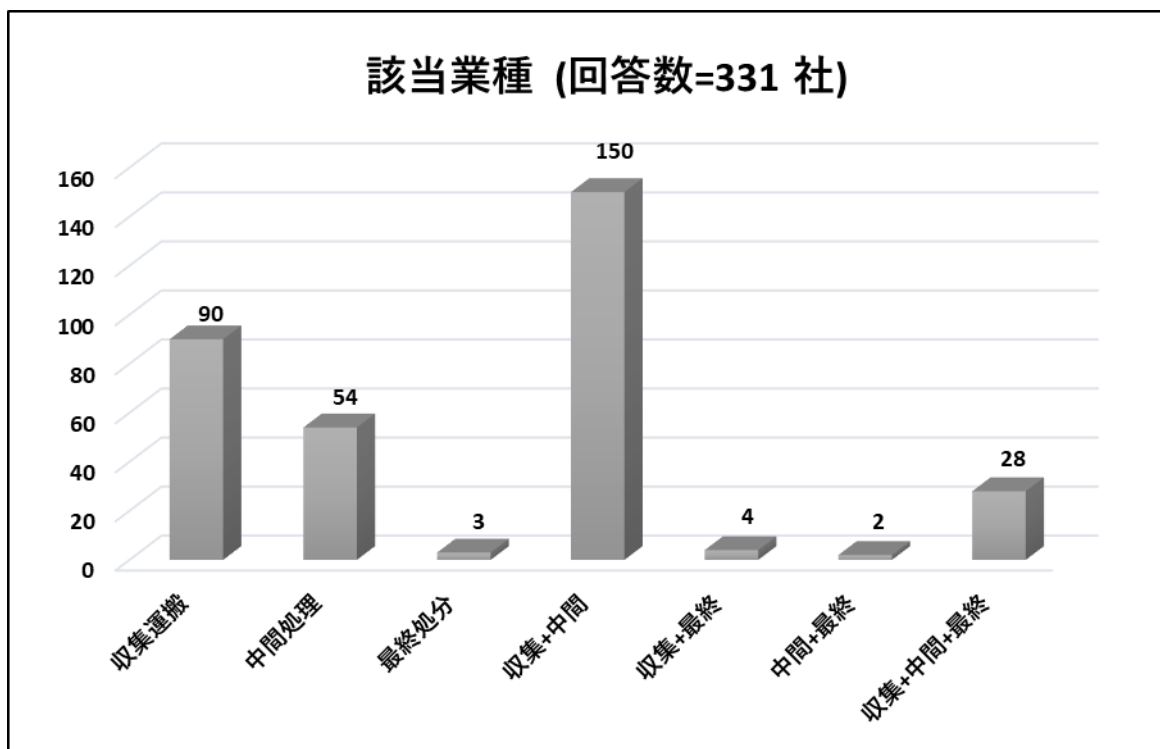
回答企業数 331社

(5) サンプル構成

① 地域別構成

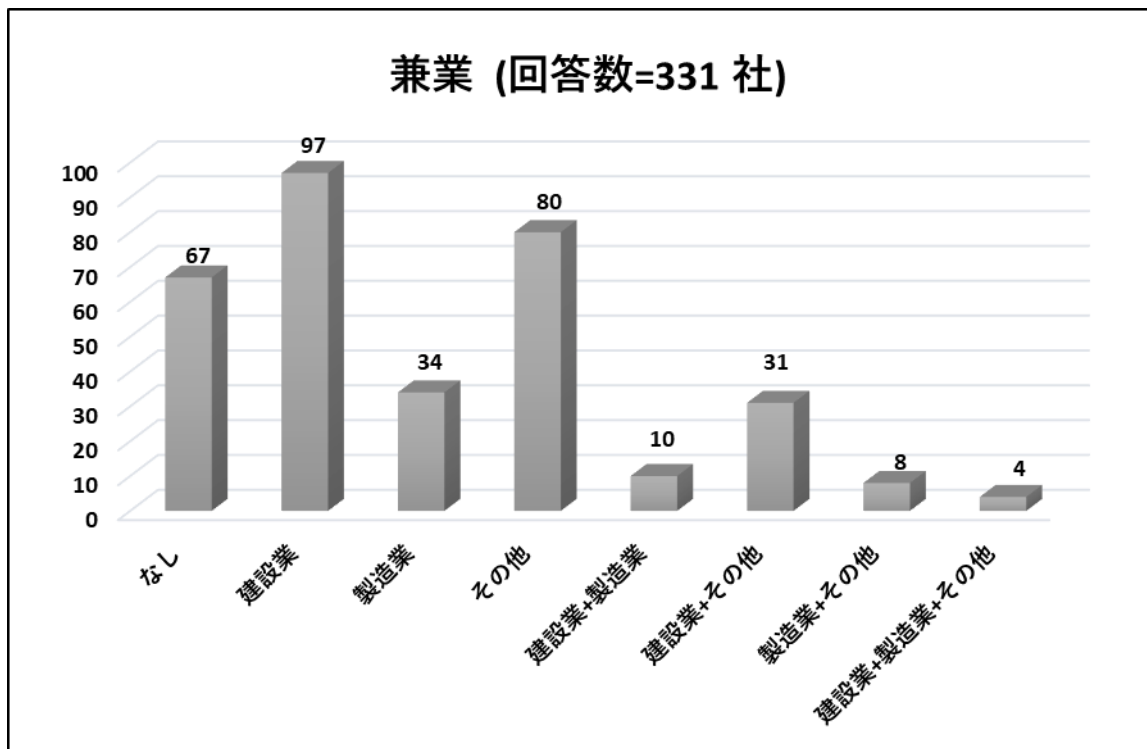
地域	企業数	構成比
北海道・東北	54	16.3%
関東	56	16.9%
信越・北陸	30	9.1%
中部	65	19.6%
近畿	23	6.9%
中国	40	12.1%
四国	28	8.5%
九州・沖縄	35	10.6%
合計	331	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	90	27.2%
中間処理	54	16.3%
最終処分	3	0.9%
収集+中間	150	45.3%
収集+最終	4	1.2%
中間+最終	2	0.6%
収集+中間+最終	28	8.5%
合計	331	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	67	20.2%
建設業	97	29.3%
製造業	34	10.3%
その他	80	24.2%
建設業+製造業	10	3.0%
建設業+その他	31	9.4%
製造業+その他	8	2.4%
建設業+製造業+その他	4	1.2%
合計	331	100.0%